

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ひだまり上郷

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800084		
法人名	株式会社 WAKABA		
事業所名	グループホーム ひだまり上郷		
所在地	〒028-0771 岩手県遠野市上郷町佐比内46-23-2		
自己評価作成日	令和3年6月30日	評価結果市町村受理日	令和3年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・家庭での味を味わって頂きたいので3食手作りしている。季節感を大事にしたいので旬の食材を提供するよう心掛けている。</p> <p>・利用者様それぞれの個性を大事にしたレクや楽しみを提供できるよう努力している。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣には、小学校や保育園、地区センター、デイサービス・ショートステイ施設があり、これらの施設と定期的な会合を通じて地域との連携が図られている。事業所付近には猫川があり、浸水想定地区内にあることから、緊急避難先として上郷地区センターが指定され、近隣住民には避難時の協力を依頼しているほか、職員4人もすぐに駆けつけられる体制が整っている。事業所内は、各室内にエアコン、トイレ、洗面台が備え付けられているほか、利用者は、デイルームのソファで寛ぎながらテレビを観れる環境にある。コロナ禍のため行事などは控えているが、定期的な買い物や馴染みの場所へのドライブを行い気分転換を図っている。利用者への食事は三食とも職員が交代で調理し、近隣からいただく季節の野菜を取り入れた献立となっている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年9月6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが ○ 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のその人らしい生活ができる場所であるよう心掛けている。	職員会議で職員から提案があり、介護理念を「利用者がその人らしい生活ができるケアを提供します」、「地域との結びつきを大切にし、安らぎのある環境づくりを目指します」と本年4月に見直した。デイルームの壁に掲示し、管理者、職員のみならず利用者・家族も事業所の目指す姿を共有できるようにしながら、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍ではあるが、近隣の住民の方との交流・付き合いを職員それぞれに取っている。	コロナ禍以前は、近くの上郷小学校や保育園の運動会や発表会などの行事に頻繁に参加していたほか、地域ボランティア「かすみ会」による演芸ショー、地区老人会との交流を行っていた。コロナ禍の現在は、学校からタオル地のウエスをいただいたり、保育園から図工作品のプレゼントがあり、更に、近隣農家からは野菜のおすそ分けが続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は住民の方(主に老人クラブ等)と利用者の交流を通じて、認知症の方への理解を促していたが今はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は現在中止している。代わりに、現在の状況を文書にて委員と地区センターに配布している。	運営推進会議には、区長・老人会・市職員・地区センター職員・家族と職員が参加している。会議では、入居者状況や職員の研修情報の報告、事業所内の行事やレク活動の説明、外部評価結果の報告などを行っている。現在は、コロナ禍のため、会議資料を各委員や地区センターに送付しているが、対面での会議は行なっていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か疑問点・困りごとがあるときは、市町村担当者へ相談し問題解決している。	市の介護保険担当課からは、介護保険情報が提供され、要介護認定等の手続きも円滑に進めていただき、感染症関連の用品も提供されている。介護保険報酬改定に伴う集団指導や「上郷地区センター」が主催する小中学校・警察・社協・介護施設が一堂に会する地域の会議にも毎月参加している。生活保護担当課とは、定期的に情報交換を行なっているほか、市社会福祉協議会の安心ネットとも連携を図っている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束について理解している。時折、職員会議において今一度確認している。指針・同意書はあるが、委員会の開催・担当者を定めることはまだ未実施。	マニュアルを作成し、止むを得ない場合の同意書も整っている。定期的に職員会議で身体拘束について共通理解を図っている。赤外線センサーで玄関の出入りを察知しながら利用者を見守っている。スピーチロックはないとの認識である。委員会開催、研修実施、担当者設置を急いで検討中である。	身体拘束の実例は生じていないが、管理者や職員の身体拘束をしないケアの意識の一層の高揚を図るため、事業所内での身体拘束等の適正化を推進する体制を早急に整備することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	最近、虐待についての研修は行っていない。新人の職員にはその都度他職員が指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援を利用されている方がいるため把握している。成年後見制度は、これから利用される予定の方がいるので勉強中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明はその都度必要に応じて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を常に反映できる取り組みを心掛けている。	利用者の日常の行動から、本人の好みや思いを感じ取り、個人ファイルに記録し職員間の情報共有を図っている。コロナ禍のため、遠方への外出制限が続いており、バスハイクなどの外出の要望は薄れ気味である。家族からの要望は少ないが、定期的に家族と連絡を取る機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で直接代表に意見・提案の機会を持っている。	研修受講の職員に対し宿泊費、研修費用を事業所が負担し、研修の積極的参加を促している。朝夕のミーティングや職員会議で出された意見は、運営やレク等の利用者支援に反映されている。代表と職員の個人面談を年1回行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から夜勤手当を増額した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては前向きに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近では同業者との交流などは少ないのが現状。研修会参加もコロナで実施していない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り利用者様の声を聴き、本人が安心できる関係づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時に家族様の困っていること、不安に感じる事、見えないところを聞き取りするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に訪問し、本人・家族の聞き取りを行い入所やサービスの説明をするよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り一人一人に寄り添った対応、関係づくりを考慮している。		

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて行事などは出来ていないが、電話で状況を説明し理解を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ問題で制限があり、なじみの関係が少し途切れています。	利用者が入居するまで従事してきた仕事などの生活歴に照らしながら、本人の馴染みを聞き出したり想像したりしているが、本人自身が馴染みの人を忘れてたり相手も亡くなったなど、交流まで繋がらない場合が少なくない。かつて職場等があった場所や自宅付近、氏神社などをドライブすることで、馴染みの場所や人との思い出が蘇ることがあり、継続した取り組みに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格などを把握し、楽しく会話できるように座席などの配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を把握し、本人らしく暮らせるように支援している。	利用者の日々の行動から、本人の好みや思いを把握し職員が感じ取ったことを記録に残している。昼食後の時間帯に、職員が利用者との会話の中で、本人の思いを聴いたりもしている。利用者ごとの職員担当制はないが、把握した個人の好みや趣味等に沿って、麻雀やお花、踊り、あるいは新聞の購読など、本人の生活に根付いた趣味活動等を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを本人や家族から聞き取り、生活歴の把握に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日便生活の中から本人の生活リズムを把握し支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議などの中で利用者の状態確認や支援方法について意見交換を行っている。	入居前の実態調査に基づき、まずは入居当初の介護計画を作成している。利用者の介護度に応じ計画期間を3か月～6か月とし、3か月に1回、短期計画の見直しを行い、6か月に1回再アセスメントし長期計画に変更する場合もある。介護支援専門員は、週に3日勤務し、定期的に利用者、家族と連絡を取りモニタリングを行なってプランの実践状況等を評価している。職員会議で計画内容の共通理解を図り、職員共通のプランとして実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察や記録をし、お互いの情報を共有して会議などで話し合いながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診で家族が対応できない場合は施設で対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのつながりを大切にしている。利用者が施設周辺を散歩していると、地域の方も気軽に話しかけて下さる。感染症対策の為交流はなかなかできない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の訪問診療を行っている。家族対応でかかりつけ医を受診している利用者もいる。	利用者のうち6人が、事業所の協力医の訪問診療を月1回受診している。他の利用者は、事業所で託した本人の記録等を持参した家族が同行し、定期的にかかりつけ医を受診している。歯科は、必要に応じて訪問診療をお願いできるよう予め契約をしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していないため、普段の利用者の状態を職員が把握している。小さな変化でも対応できるように全職員で情報共有を行い、何かあった場合は訪問診断の医師に相談、または救急外来を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の場合職員が付き添い、医師・看護師と情報交換を行い、連絡は密に取るように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りは行っていない。重度化した場合、市内他施設への申し込みをしている。施設が見つかるまでの間は家族と連絡を取り合い、可能な限り支援を行っている。	事業所として、看取りまでの対応は行っていない。入居時に重度化に応じて特養等へ入所申し込みをするようお願いしている。看護師の常駐はなく、かかりつけ医の時間外診療も見込めないため、緊急時は市内の県立病院受診としている。体調悪化で入院した場合、グループホームに戻ることは少ない状況にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状態を見て、申し送りや職員会議で話し合い対処するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々と話し合い協力をお願いし、職員全体体制で協力する。	事業所は、浸水想定区域に位置し、大雨による水害も予想されるなかで、年2回消防署立ち合いのもと避難訓練を実施している。地域の避難場所は、近くにある上郷地区センターが指定されている。避難の際には近隣住民の協力を得ることができる体制にあり、職員4人も早急に駆け付けられる場所に居住している。	水害、火災、地震災害に応じた各対応策を講じるなかで、夜間に近い時間帯での避難訓練の実施、地域住民への連絡体制や役割分担の整備、食料品等の備蓄を行うなど、災害対策の充実に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に対して人権を尊重し、声掛けやプライバシー確保に心掛けている。	職員持ち回りで人権尊重の研修を実施しているほか、外部研修への参加の際には職員間の情報共有を図っている。居室へ出入りする際のノックの励行や入浴時の羞恥心への配慮、同性介助など、利用者の人格を尊重した言葉かけや介護の実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人の思いや希望を受け入れ、自己決定できるように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体であることを意識し一人一人のニーズに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞き出し、行く場所や内容に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いたり、献立を時には一緒に考え、準備や片づけをして頂いている。	食事は、三食とも職員が交代で手作りし、献立は随時利用者から聞き取った要望を盛り込んでいる。ひな祭り、端午の節句等での巻きずし、赤飯、煮しめ等の行事食を用意するほか、季節に応じた献立や野菜を取り入れた食事を常に意識して提供している。利用者も下拵えや下膳に参加している。利用者の誕生日には作ったり買ったりして、皆が喜ぶケーキを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定の結果を注意し、一人一人の食事量や水分量を常に心がけ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部介助・全介助とその一人一人の状態を見ながら声掛けをしてケアを行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人での排泄が困難な方には声掛けをし、誘導を行っている。ほとんどの方は自分のタイミングでできている。	利用者のなかで、布パンツの利用者が3人、紙パンツ4人で、おむつ利用者はいない。1人を除き自立している。事業所では、居室に設置されている個別トイレを利用することが自立につながっているとされている。排泄は、本人の希望で誘導し同性介助を基本としている。下剤を使用している場合には、申し送りをしてトイレ誘導のタイミングを見計らうようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、水分の摂取方法や食事などの工夫をし予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回必ず実施している。体調不良や拒否があった場合は日をずらし入浴してもらっている。	週に2回の入浴を基本とし、入浴をいやがる方はない。職員は、入浴介助に併せ利用者の身体状態の観察をするなど、健康状態の把握に努めている。入浴を楽しんでもらうため入浴剤を使う場合もあるが、肌の弱い利用者には使用していない。浴室には一般浴のほかリフト浴を整備し、本人の体調に応じて使い分けしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や保湿に注意し、夜間は安眠できるよう声がけをし自由に任せています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬に関しては理解し支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。気分転換に職員とドライブに出かける等の支援をしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員が付き添って散歩に出かけたり、本人に行きたい場所・見たいところを聞いてドライブなどに連れて行ってる。	利用者は、週3回の食材の買い出しに同行したり、職員の支援のもと近隣へ買い物に出掛けているほか、事業所の乗用車でドライブがてら自宅やその付近の神社などを廻っている。また、気分転換のため定期的に事業所周辺を散歩している。コロナ禍のため事業所恒例の遠方へのバス旅行を中止しているほか、地域主催の協力活動も行われていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者にはお金を管理してもらい、買い物したいときは職員が付き添い買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から手紙が届いたら職員が代読したり、本人の希望があればいつでも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では利用者様に季節を感じられる物を制作していただき壁などに取り付け、くつろげるスペースを確保している。	共用ホールには、ソファー、テーブル、椅子、エアコン、空気清浄機があり、日当たりの良い生活環境が整備されている。好きな場所でテレビを楽しめるようにしているほか、壁には近隣児童の作品、季節の飾り、利用者の作品を掲示している。入浴室や共同トイレは廊下を通り奥の方に設置され、ホールからは見えないよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間では利用者がゆっくりくつろいだり、自由に座って会話ができるようソファの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族と相談し自宅で使っていたものを居室に用意したりして居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、エアコンやベッド、トイレ、洗面台が設置され、衣装ケースやテレビ、写真、カレンダーなど利用者の好きなものが持ち込まれている。レイアウトは個人に任せるなど、生活し易い環境が整っている。職員と利用者が毎朝一緒に掃除しているほか、季節外の衣類は倉庫に保管している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安心安全に生活できるよう個々に本人や家族と相談し、環境整備に努めている。		